



工場で製作した落とし板パネルを柱の間に建て込む合理化された構法



勾配屋根を利用したロフト 子供部屋や物置として利用する



ゆるやかな傾斜に沿ってできた仮設の家並み
間には近所の人が行き交う路地が通る



内部 掃き出し窓から縁側につながる開放的なつくり 間仕切りは障子
全景 里山を背景にカーブした道に沿って小さな家が建ち並ぶ

板倉構法

板倉構法は、日本に蓄積されている森林資源であるスギを活用し、大工技能の継承を図って、地域の住宅ストックをつくることを目的として開発し、耐震性と防火性能の国土交通大臣認定を取得して実用化した構法である。板倉構法の特徴はスギの厚板で、床、壁、屋根を構成することで、堅牢で耐久性があり、断熱性と調湿性に優れた木の家を造ることができる。

地域による木造仮設住宅の建設

福島県では仮設住宅建設予定の1万4千戸の内、4千戸について、地域の木材利用と大工職人などの地元の雇用を促進することを目的に、地域の事業者からの仮設住宅の提案を公募した。福島県会津の佐久間建設工業を中心として、板倉構法による仮設住宅共同建設体制を組織して福島県の公募に応募した結果、200戸を受注した。

地域のストックをつくる

この構法で仮設住宅を提案するというは、それを仮設として償却するのではなく、その後に復興住宅に転用することを意図している。2~3年間の仮設としての使用後に100年もの地域住宅のストックを造ることが最終的な目標なのである。同時にそれは仮設住宅として、狭くても居住性に優れた家を提供できることを意味する。

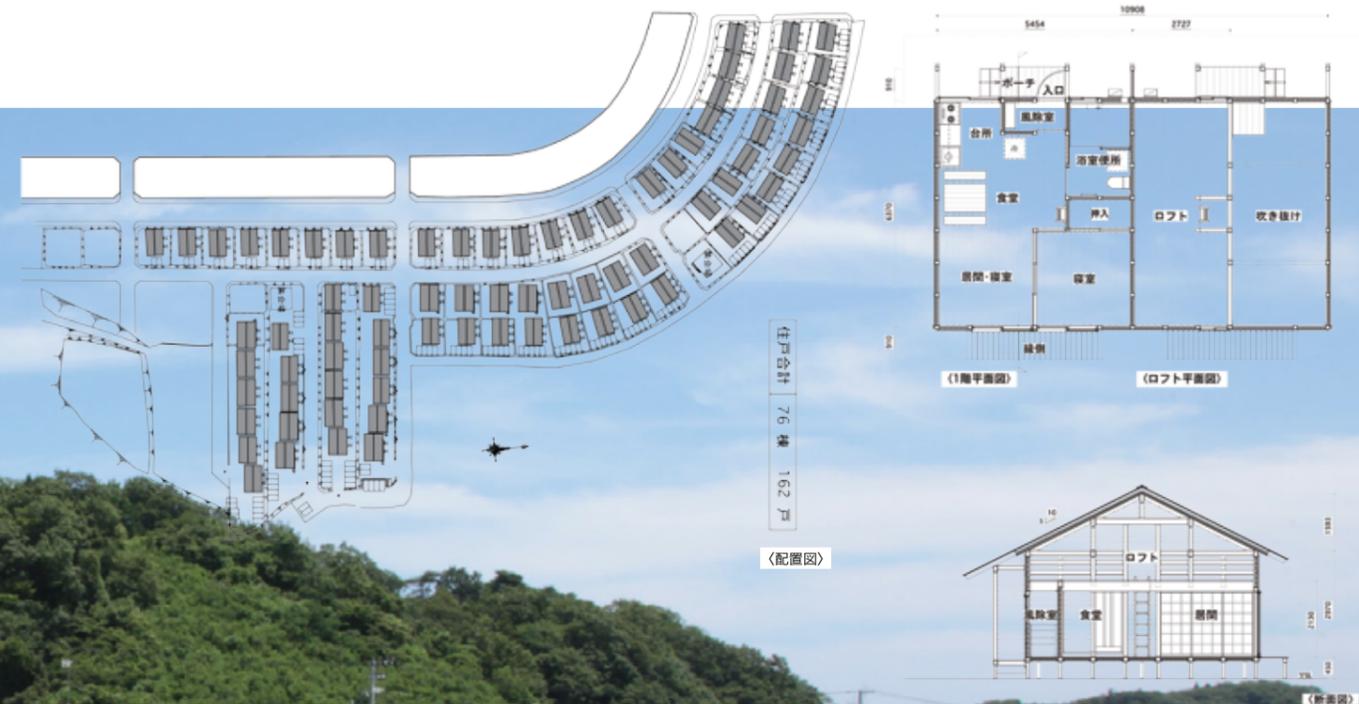
木造仮設の町並み

この仮設住宅の本当の評価は、被災者が入居し、そして仮設の役割を終えたときになされよう。しかし工事半ばでその姿は何かを語り始めている。スギの角材と厚板で構成された住宅は基礎の杭を除くと従来の仮設を遥かに超えた存在となった。その町並みは力強く穏やかであり、被災者に復興の希望を与えるに違いない。

(安藤邦廣/筑波大学教授)

発注/福島県 設計/安藤邦廣+里山建築研究所 施工/佐久間建設工業 木材供給プレカット/那賀川すぎ共販協同組合

問合せ先 里山建築研究所 T/F 029(867)1086 E-Mail:satoyama-archi@air.ocn.ne.jp
佐久間建設工業 Tel 0241(52)3113 Fax 0241(52)3320 E-Mail:tucky@sakuma-k.co.jp



福島県いわき市

板倉構法による応急仮設住宅